

共同研究プロジェクト

「福祉に生かす代替療法－音楽・気功・チベット医学」

活動報告

馬場 雄司・濱野 清志

本年度より、新規プロジェクトとして発足した当プロジェクトは、永澤哲をメンバーに加え、それぞれの研究分野を生かして代替療法の可能性について研究をすすめてきた。

本年度、研究活動として行ったのは、主に以下の3つである。

- 1 チベット医学週末ワークショップ
- 2 介護老人保健施設での「気功と音楽」
- 3 熊野エリアにおける「気場」の調査

チベット医学週末ワークショップは、永澤の紹介で国際伝統チベット医学研究院院長ニダ・チェナクツァン先生を招き、8月1日、G104教室で行われた。ニダ先生には、特にチベット医学の観点からみた特定の疾病についての診断・治療のプロセス、またアンチ・エイジングについて、講演していただいた。また、これに先立って、ニダ先生は永澤が中心となって大阪市朝潮橋にあるイースト・ウエスト交流センターで、チベット伝統医学の中のマッサージにかかわる部分であるクニエの講習会を1週間かけて行っておりそこに濱野も参加し、クニエとその前提となるチベット医学の導入を学んだ。

また、11月3日及び3月5日、京都市伏見区にある介護老人保健施設第二京しみずのデイサービスのレクリエーションとして「気功と音楽」を組み合わせた実践を行った。これまで濱野は学生らとともに地域の方々に気功の指導を行い、馬場は学生らとともに福祉施設や地域イベント

で民族楽器を中心とするパフォーマンスを提供してきた。今回の試みは、この二つを組み合わせ、代替療法の可能性を広げようとするものである。具体的には民族楽器の演奏にあわせて童謡や歌謡曲を歌いながら、手足を動かしていくというものであるが、「あー」と長く息を吐く歌を選択するなど気功の原理にかなう方法が模索された。この試みはまた、学科を越えた学生の研究交流につながる可能性をもつものでもある。

馬場・濱野・永澤の3名はまた、2月24日から26日にかけて、三重県熊野市在住の気功家、中健次郎先生の案内で、三重県熊野市から和歌山県田辺市本宮町までの区域を訪れた。そこでは、大馬神社、大丹倉、布引の滝など修験行者が訪れるといういくつかの気場を訪れ、瞑想を行うなど気を感じることを試みた。マイナスイオンや水の流れなどの他、森の緑のグラデーションなどの色や音環境を総合的に考える必要があり、自然科学との共同研究や熱帯雨林との比較も視野に入れた「環境と生命」をテーマにした研究を目指すことが確認された。また、中健次郎先生による気功の講習もなされた。この中健次郎先生は11月29日に本学で気功の講習会を行っている。

この3つの活動は、来年度以降も継続する予定である。今後は、これら相互の関係などについても考えていきたい。